

6 Friendly contemporary art courses for everyone: CURATION, CURATION INTENSIVE, ARTIST, AUDIENCE, MAGAZINE, CRITIC, READERS.

W V
K M N P D
M A D

Making Art Different 2004

WHAT IS MAD?

MADとは？ —— MADは、独自の講義と現場の議論を重視したコンテンポラリーアートの新しいエデュケーションを目指します。MADは、2001年よりスタートしたエデュケーション・プログラムで、キュレーションとキュレーションインテンシヴ（現代美術史・理論を踏まえ、展覧会企画の実践を目指すコース）、オーディエンス（入門者のための現代美術を鑑賞するコース）、アーティスト（アーティストの自立した活動のための理論的バックアップのコース）、マガジン（海外のアート雑誌から世界のアートシーンを読むコース）、クリティカルリーダーズ（現代美術を考える上で参考となる思想に関するテキストを深く読むコース）の6つを開講しています。MADは、NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] が運営するものです。受講生は、各コースの受講と同時にAITのサポートメンバー（準会員）となり、いくつかの特典（AIT主催のイベントへの参加費割引など）を受けることができます。

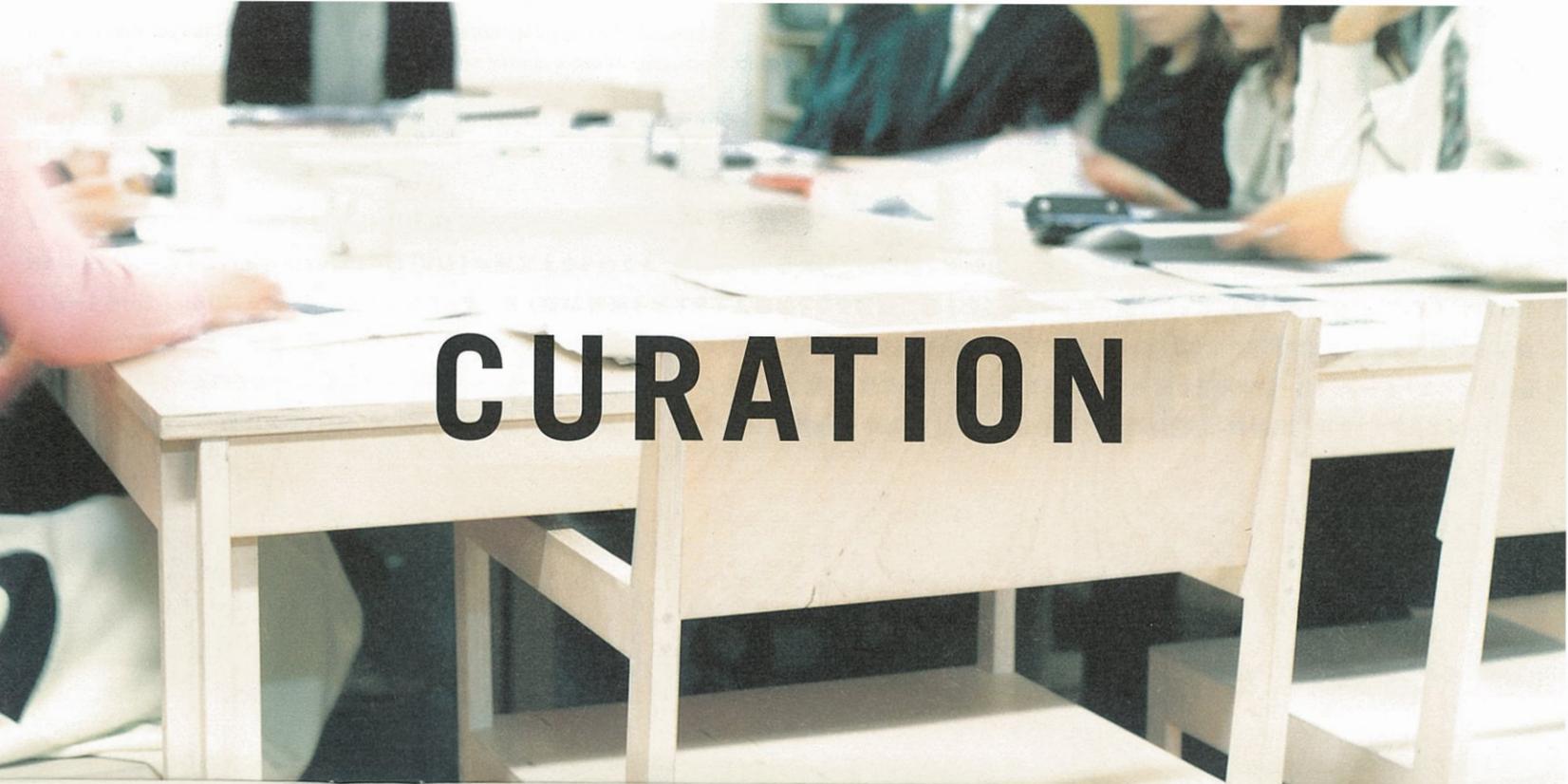
MAD stands for Making Art Different.

It is the educational programme of the non profit contemporary arts organisation AIT (Arts Initiative Tokyo).

Over 130 students enrol annually in the six courses offered.

MAD looks closely at contemporary art issues within a broad inter-disciplinary context.

As an independent programme MAD courses are flexible and friendly.



CURATION

ここ数年、「キュレーション」という言葉を、以前よりも頻繁に目にするようになってきました。それは展覧会が、美術館やギャラリーといったアートに特権的な空間にとどまらず、屋外、廃屋、廃校、そして地域を巻き込んで開かれるケースが増えてきたことや、これまでのキュレーションの方向性が見直され、さらにそれに挑戦する動きが出てきたことにも由来でしょう。コンテンポラリーアートを取り巻く社会の枠組みの変化に伴って、キュレーションの役割や方法について活発に議論されるなか、コンテンポラリーアートのキュレーションとは何かを考察し、その可能性を探ります。

2004年度は、キュレーション インテンシヴ(上級4ヶ月集中コース)とキュレーション(中級1年コース)の2コースを設定しています。

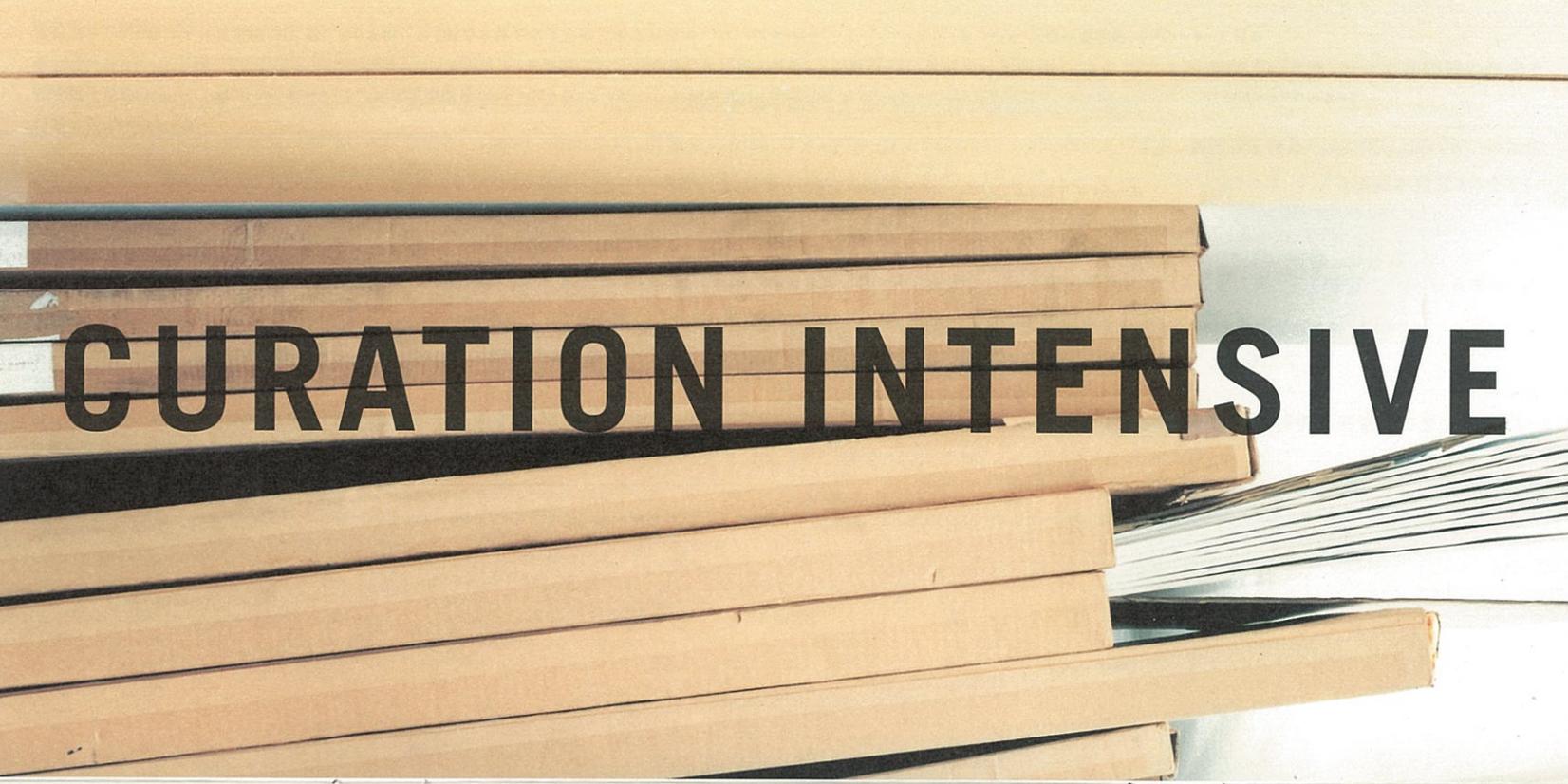
キュレーション

「キュレーション」は、従来のキュレーションコースと同様、2004年の4月から2005年の3月にかけて開講されるコースで、1年を通して理論と実践の面から体系的にキュレーションを考える中級者向けプログラムです。キュレーション インテンシヴとの違いは、1年間、各自のペースでキュレーションやコンテンポラリーアートに対する考えを探求し、その成果を「オンペーパー」(展覧会の企画案)という形でコース終了時に提出することです。

このコースは、キュレーションの基礎的な考え方を学びたいと考えている学生や社会人、キュレーションを通じてアートを学びたいと考えている方、将来海外留学を考えている方、キュレーションに興味のあるアーティストなどを対象としています。

[コースの構成] このコースは、基本的にレクチャーとセミナーで構成され、コース終了時にはOn Paper(展覧会企画案)の提出が課題となります。

Curation is a one year course that looks at how contemporary art curating is changing today. Students work on an individual exhibition proposal which is presented at the end of the year.



CURATION INTENSIVE

キュレーション インテンシヴ

2004年の4月から、キュレーションの新しいコース「キュレーション インテンシヴ」が始まります。このコースは、2004年4月から7月にかけて毎週行われる短期集中コースで、理論と実践の面から専門的にキュレーションを考える上級者向けプログラムです。週一回のペースで行われるクラスでは、受講生どうしはもとより、プログラムディレクターとのより密度の高いコミュニケーションが図られ、「ラボ（研究グループ）」的な雰囲気の中でクラスが展開されます。また現代美術の分野で活動する専門家をチューターとして迎え、実践的かつ発展的な意見交換を行いながら、理論を確認し、自らの考えを深めていくことを目指します。

このコースは主に、将来キュレーターとして専門的にアートに携わりたいと考えている学生や社会人、様々な展覧会作りの現場に具体的に取り組もうとしている方、そのための海外留学を考えている方、キュレーションに興味のあるアーティストなどを対象としています。

[コースの構成] このコースは、基本的にレクチャーとワークショップで構成され、コース終了に向けて、展覧会作りのシミュレーションを行います。

Curation Intensive is a four month weekly course that creates a laboratory-like environment in which to investigate contemporary art curating practice today. Students work in small groups towards an exhibition project.

レクチャーシリーズ

キュレーションの理論:キュレーションを専門的に考える上で基礎となる項目を網羅したもので、現代美術の展覧会を支える様々な思想、展覧会様式の変遷、現在多様化している展覧会の形式、近年の国際展の傾向などのテーマで行われます。プログラムディレクターやゲストレクチャーにより、知識と経験を踏まえた専門性の高い講義が行われます。

キュレーションの実践:展覧会の制作におけるマネージメント、宣伝広報、展覧会の記録、ファンディングなどのテーマを取り上げます。展覧会を作るために何にどのくらいのお金がかかるのか、また効果的な宣伝はどのように行ったらよいかなどについて、実際に様々なかたちで展覧会の制作を経験したプログラムディレクターやゲストレクチャーによる講義が展開されます。

レクチャーの後は、それぞれのテーマや内容をさらに掘り下げ、自らの関心を深く考えるためのディスカッションが行われます。受講生は、プログラムディレクターやゲストレクチャー、チューターを交えて意見交換を行い、様々な視点から自分のキュレーションに対する考え方を明らかにします。

ワークショップ

ワークショップは、レクチャーシリーズと並行して適宜行われます。ここでは小グループに分かれ、展覧会作りのシミュレーションを行います。グループでは、互いにアイデアを出し合いながらひとつの展覧会を共同で構築します。テーマを掘り下げ、テキスト、キャプション、プレスリリースなど必要な形式を踏まえた上で、複製イメージやそのほか様々なオブジェなどを用い、AITルーム内でミニ展覧会を実現させます。ここでは4ヶ月という短期間の中で、集中してテーマの設定方法やそれに対するアプローチ、アーティストの選考、展示方法という流れを総合的、実践的に理解することを目指します。

レクチャーシリーズは、コースディレクターやゲストレクチャーにより毎週行われます。またワークショップは、受講生がグループに分かれ、共同で展覧会を作り上げる実践的なプロジェクトで、コース開講中に適宜行われます。チューターとは、国内外でキュレーターとしての経験をもち、理論的、実践的な指導を行うことのできる人材で、ディレクターやレクチャーと共に受講生のサポートを担当します。

Brush painting, Brice Marden, Terry Winters, Gerhard Richter, Albert Oehlen, Daniel Richter, Laura Owens.

Photography, Jeff Wall, Jenny Holzer, Barbara Kruger, Richard Prince, Thomas Struth, Andreas Gursky, Hiroshi Sugimoto, Araki.

Painting, Gerhard Richter, Malcolm Morely, Eric Fischl, Dexter Dalwood.

Minimalism/ chigai, Jimmie Durham, Lorna Simpson, Jun Ngyuen Hatsushiba, Yinka Shonibare, Chris Ofili.

Conceptual art/ shoh-hin to art, Jeff Koons, Ashley Bickerton, Haim Steinbach, Murakami Takashi, Mariko Mori,

Installation, Tony Cragg, Hamish Fulton, Christo and Jean-Claude, James Turrell, Tadashi Kawamata,

Performance art/ shakai no ura/ byoh-gai, Mike Kelley, Paul McCarthy, Martin Kippenberger, Makoto Aida, Franz West,

Video, Bill Viola, Gary Hill, Nam Jun Paik, Bruce Nauman, Douglas Gordon, Willie Doherty,

Contemporary art, Rikrit Tiravanija, Tsuyoshi Ozawa, Surasi Kusolwong.

プログラム

[レクチャーシリーズ]

Critical Concepts and Core Texts

複製技術と美術—映像と20世紀の美術／ポストコロニアリズム—ポスト植民地主義と表現の問題／グローバリズム—90年代以降の世界と国際展／フェミニズム—女性解放運動と表現

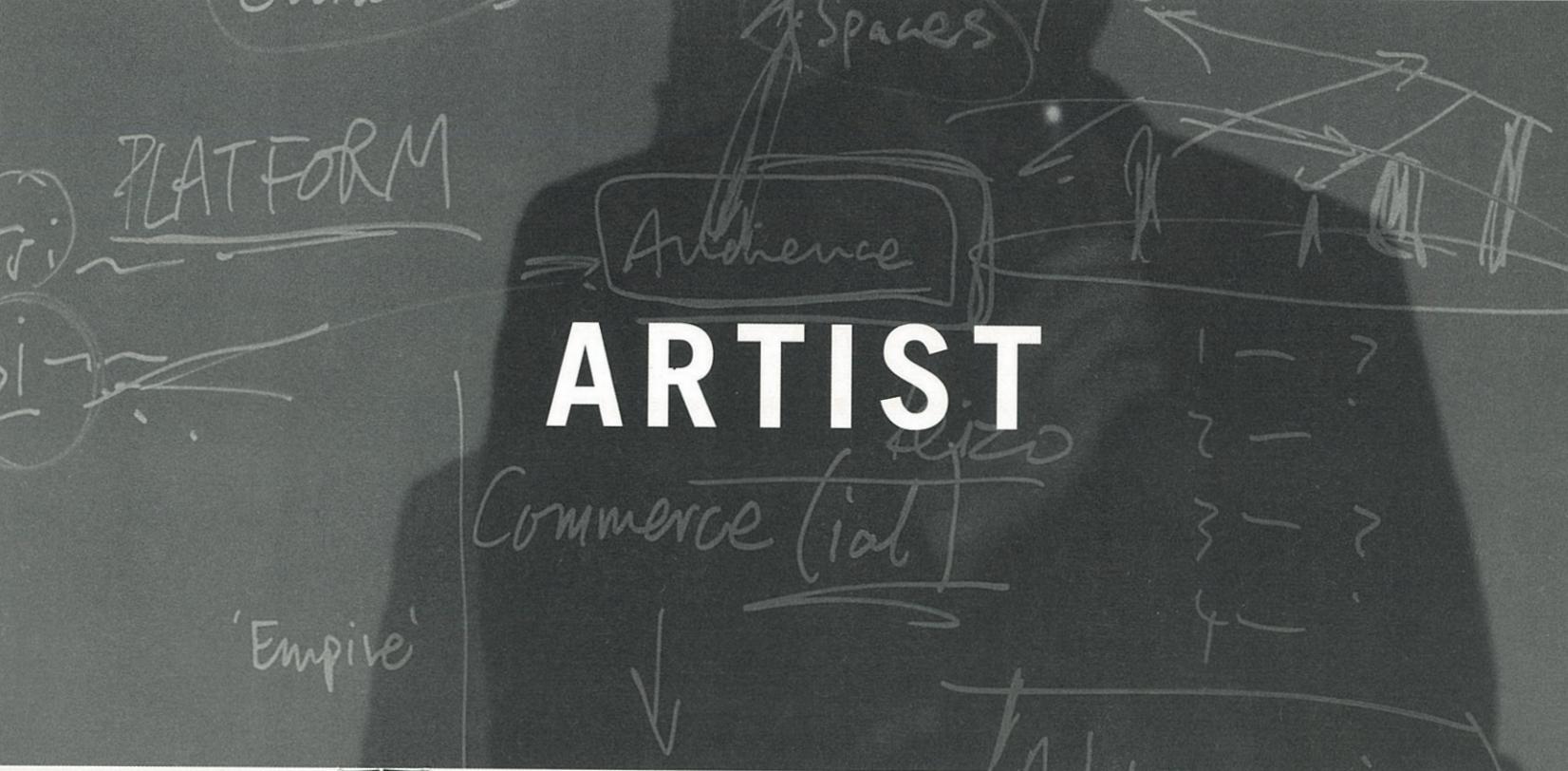
Curatorial Studies

美術界の仕組み—作品、人、場のネットワーク／美術館—歴史と変遷、現在の試み／ギャラリー—以外での展覧会 — 歴史と傾向:サイト・スペシフィック作品とは?

展覧会の現在—多様化する形式と戦略:国際展、国際巡回展、地域ベースの展覧会など／コミュニケーション—PRやプレスリリースなどについて／現代美術の教育—ワークショップなどの教育プログラム

Exhibition Project

展覧会企画のプロセス—アドミニストレーションとマネージメント／展覧会の記録—展覧会の資料化(カタログ制作など)



ARTIST

アーティスト

このコースは、国内外で自分の作品のプレゼンテーションを積極的に行いたいと考えるアーティストのための3ヶ月集中コースです。キュレーターや評論家に対して自ら作品を紹介することを考えている方、プレゼンテーションスキルの向上を目指す方、これから海外への留学を考えている方、自らの作品を客観的に眺める機会を得たい方を対象としています。

刻々と変化する国際的な現代美術の文脈の中で、現代美術を考える上での専門用語や基礎となる理論、美術界の仕組み、アーティストとして知っておきたい現在の美術の状況などについての講義を中心とします。またクラスでは、自分の作品についてグループで批判的かつ積極的に話し合い、広い視点での議論を試みます。プログラムディレクターの経験に基づき、ポートフォリオ、ステートメント（作品制作意図）の作成についても適宜アドバイスをします。

プログラムは12名という少数制で行われ、最終回のクラスでは、美術専門家（キュレーター、美術評論家など）をゲストとして迎え、各自のベストプレゼンテーションを目指します。

プログラム

マッピング・アート・シーン（アート界の仕組みを知る）／作品のプレゼンテーションとアーティスト・ステートメントの作成／「モダン」「ポストモダン」という考え方を
現代美術の専門基礎用語／現代美術の傾向とそのアプローチ - 概観と分析／専門家を迎えての各自プレゼンテーション

過去のゲスト

最終回のクラスでは、専門家に対する各自のプレゼンテーションを行います。これまでに以下の方々を招いて行われました。

荒木夏実氏（森美術館 キュレーター）／市原研太郎氏（美術評論家）／神谷幸江氏（ニューミュージアム アソシエイトキュレーター）／杉田敦氏（美術評論家）／南條史生氏（森美術館 副館長）ほか

Artist course is a three month intensive course offering artists advice on portfolio-making and public presentation.
Lectures covering contemporary theory and ideas are also offered.



AUDIENCE

オーディエンス

このコースは、「現代美術って面白そうだけど、いまひとつわからない」「最新の海外のアート情報がなかなか得られない」「現代美術のことをもっと知りたい」という方を対象とする7ヶ月の入門的なコースです。

キュレーター、評論家、アーティストなどによるスライドレクチャーやトークと、話題の展覧会、美術館、ギャラリースペース、アートプロジェクトなどへの訪問で構成され、いずれもそれぞれの場や作品に応じたゲストレクチャーと受講者の対話を中心とします。訪問する場所に応じて、メンバー専用の小型バスを活用することで、見学を効率的で快適なものにします。その他、2004年に行われる国内外の美術展の最新情報も、実際に現地を訪ねた講師が、ヴィジュアルイメージを交えてレポートします。コンテンポラリーアートは、現代の社会において、ものの考え方や捉え方に広がりをもたらすものです。興味を共有する人たちやゲストと共に見て話し合うことで、より能動的な鑑賞の機会を提供します。

2003年度 主な展覧会訪問先および講義内容

【訪問先】川崎市岡本太郎美術館「風の模型—北代省三と実験工房」展／川村記念美術館「盗まれた自然」展／東京都現代美術館 常設展

森美術館「ハビネス—アートにみる幸福への鍵 モネ、若冲、そしてジェフ・クーンズへ」展、および六本木ヒルズ内パブリック・アート／水戸芸術館現代美術センター「YES オノ・ヨーコ」展

【講義】「ヴェネチアビエンナーレを例に見る国際的なアートシーンとその傾向」南條史生氏（森美術館 副館長）／「美術としての写真」飯沢耕太郎氏（写真評論家）

「東京画廊の歴史と仕事」山本豊津氏（東京画廊）／「世界の国際展レポート：イスタンブールビエンナーレ、リヨンビエンナーレ」市原研太郎氏（美術評論家）

Audience course introduces contemporary art and ideas through organised visits to current exhibitions, talks by guests and classroom discussions.



マガジン

このコースは、アーティスト、キュレーター、オーディエンス、コレクター、学生、社会人などを対象とする3ヶ月コースです。海外のアート専門誌を通じて、「世界のアートの動向を知りたい」、「注目のアーティストや新しい美術館の動き、話題となった展覧会に対する批評や議論、アートマーケットのニュースなどにふれたい」という方のためのクラスです。欧米やアジア諸国では、コンテンポラリーアートの専門雑誌が数多く出版され、それらの誌上では、アートを考える際に有効な「評論」や「批評」が行われています。そこでは、様々な理論付けの作業が行われ、常に積極的な議論が行われています。例えば、昨年第50回目を迎えた大規模な国際展ヴェネチアアビエンナーレのレビューは、様々な雑誌に取り上げられ、多様な議論展開でその一大イベントを読み解いています。毎月発行されているコンテンポラリーアート雑誌の記事を取り上げ、グループディスカッションや頻繁に使われる英語の専門用語の解説などを行いながら、世界のアートの動向をつかみます。

プログラム

最新記事が取り上げられるため、クラスの内容は各期により異なります。

アート雑誌例

Art Forum (アメリカ) / Art in America (アメリカ) / Frieze (イギリス) / Contemporary (イギリス) / Art Monthly (イギリス)
Art Newspaper (イギリス) / Tate Magazine (イギリス) / Parkett (スイス) / YISHU (中国) / Art in India (インド) など

2003年度に参照した主な記事

Venice Biennale review from *Frieze*. / Shock art turns on the Tate – a report on The Turner Prize in *The Guardian*.
Shooting behind the lines – an article on war & photography in *Contemporary*. / The most expensive museums in the world in *The Art Newspaper*.
Japanese artists in the international league in *The Art Newspaper*. / Prague Biennale 1 reviews in *arts journal.com*. / Brand Art in *Art Monthly*.

Magazine is a three month fortnightly course centred around reading and discussing current articles in English language contemporary art magazines.



CRITICAL READERS

クリティカルリーダーズ

このコースは、多様化する現代美術の表現について、なぜそれらが美術の表現として成立するかを考えたいアーティスト、キュレーター、学生、社会人などを対象とするコースで、マガジンコースに比べ、より専門的なコースです。

国際展などのカタログエッセイでは、展覧会のテーマを支える要素として、思想家や哲学者の著作から重要な考え方が引用されているのを目にします。それは、現代美術の表現や方法が、世相を鋭く捉える思考の方法と無関係ではないと共に、社会の諸相を反映する有効な手段であることも示しているといえるでしょう。クリティカルリーダーズでは、「表現の現在」を支えている考え方を、キュレーター、思想家、哲学者などの見解を参照し、読み解くことを目指します。美術作品、展覧会、公共のメディア、映画などにおいて、どのような事柄がどのような視点でどのように表されているかを探り、その有効性や問題点についてディスカッションします。

主に英語で書かれた文献を精読するため、すでにMADのキュレーション、マガジン、アーティストコースを修了した方、英語のレベルが一定以上である方を対象とします。受講者は事前に配布されるテキストを読み、予習を行うことが望まれます。

テキスト(予定)

Nicolas Bourriaud, "Relational Aesthetics", Les Presses du Reel, 2000

Michel Foucault, "Of Other Spaces", basis of a lecture given by Michel Foucault in 1967

Sarat Maharaj, "Perfidious Fidelity – The Untranslatability of the Other", Global Visions, London, 1994

Okwui Enwezor, "The Black Box", essay from Documenta 11 catalogue, 2002 ほか

Critical Readers is a fortnightly three month course centred around close readings of selected critical and theoretical texts which do not have Japanese translations. Scholarly academic texts as well as catalogue essays are read and discussed.

CURATION

キュレーション [12ヶ月]

期間＝2004年4月6日 [火]－2005年3月29日 [火] 第1・3・5火曜日

8月と9月は休講です。

時間＝19:00－21:00

場所＝AIT ルーム (代官山)

定員＝12名

費用＝[受講料165,000円+施設利用費15,000円+入学手続費2,000円] 合計182,000円 (税別)

受講資格＝特になし。ただし、定員数を超える場合、選考あり。

CURATION INTENSIVE

キュレーション インテンシヴ [4ヶ月]

期間＝2004年4月7日 [水]－2004年7月28日 [水] 毎週水曜日

時間＝19:00－21:00

場所＝AIT ルーム (代官山)

定員＝12名

費用＝[受講料175,000円+施設利用費15,000円+入学手続費2,000円] 合計192,000円 (税別)

受講資格＝特になし。ただし、定員数を超える場合、選考あり。

AUDIENCE

オーディエンス [7ヶ月]

期間＝2004年4月17日 [土]－2004年12月4日 [土] 第1・3・5土曜日

8月と9月は休講です。

時間＝14:00－16:00 見学するときは時間が変更となります。

場所＝AIT ルーム (代官山) および訪問先

定員＝15名

費用＝[受講料70,000円+入学手続費2,000円] 合計72,000円 (税別)

受講資格＝特になし。

LIBRARY

AITルームは、コンテンポラリーアートの展覧会カタログ、アーティストモノログ、ビデオ、雑誌、スライドなどの広大なアーカイブです。受講生は、このライブラリーを利用することができます。

お申し込み＝ホームページよりお申し込みいただくか、下記の問い合わせ先まで、お名前、ご住所、ご連絡先 (電話、ファックス、携帯電話など) を明記の上、メールにて申込書をご請求下さい。

上記のコース以外にも、短期のクラスやサマースクールなども実施する予定です。詳細は、AITまでお問い合わせ下さい。地図はホームページをご参照下さい。

特定非営利活動法人 アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-8 ツインビル代官山B-103 Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0753 E-mail: office@a-i-t.net <http://www.a-i-t.net>

ARTIST

アーティスト [3ヶ月]

期間＝春 2004年4月10日 [土]－2004年6月26日 [土] 第2・4土曜日

秋 2004年9月25日 [土]－2004年12月11日 [土] 第2・4土曜日

冬 2005年1月15日 [土]－2005年3月19日 [土] 第1・3・5土曜日

時間＝14:00－16:00 場所＝AIT ルーム (代官山) 定員＝12名

費用＝[受講料35,000円+入学手続費2,000円] 合計37,000円 (税別)

受講資格＝特になし。ただし、定員数を超える場合、選考あり。

MAGAZINE

マガジン [3ヶ月]

期間A＝春 2004年4月13日 [火]－2004年6月22日 [火] 第2・4火曜日

秋 2004年9月28日 [火]－2004年12月14日 [火] 第2・4火曜日

冬 2005年1月11日 [火]－2005年3月22日 [火] 第2・4火曜日

期間B＝春 2004年4月15日 [木]－2004年7月1日 [木] 第1・3・5木曜日

秋 2004年10月7日 [木]－2004年12月16日 [木] 第1・3・5木曜日

冬 2005年1月13日 [木]－2005年3月24日 [木] 第2・4木曜日

時間＝19:00－21:00 場所＝AIT ルーム (代官山) 定員＝12名

費用＝[受講料33,000円+入学手続費2,000円] 合計35,000円 (税別)

受講資格＝特になし。ただし、定員数を超える場合、選考あり。

CRITICAL READERS

クリティカルリーダーズ [3ヶ月]

期間＝春 2004年4月8日 [木]－2004年6月24日 [木] 第2・4木曜日

秋 2004年9月30日 [木]－2004年12月9日 [木] 第2・4木曜日

時間＝19:00－21:00 場所＝AIT ルーム (代官山)

定員＝10名

費用＝[受講料35,000円+入学手続費2,000円] 合計37,000円 (税別)

受講資格＝MADのキュレーション、マガジン、アーティストコースを修了した方。

あるいは、目安として英検準1級以上の英語力を有する方。

WHAT IS AIT?

AIT is a not for profit contemporary art platform which creates a range of programs and events in Tokyo, JAPAN.

It is the first initiative of its kind to be set up in Tokyo, where the situation for contemporary art is changing dramatically with new museum laws and increasing public interest.

AIT keeps its activities un-rooted, working without a costly infrastructure.

In addition to our ongoing education, residency and information programs, we often collaborate with other organizations or act alone with speed to make symposiums, club nights, slide talks, curators and artists talks, and exhibitions in different sites around Tokyo.

AITとは？ —— AIT (Arts Initiative Tokyo) は、2002年5月に東京都より認証をうけたNPO法人で、東京を中心としたさまざまな場所に現代の視覚芸術にアクセスするための「プラットフォーム」の創出をめざして設立されました。「プラットフォーム」とは、AITが企画、制作していくさまざまなプログラムで、アートに興味のあるすべての人が立ち寄れる場です。AITでは、教育プログラム「MAD (Making Art Different)」のほか、アーティストやキュレーターなどによるトーク、シンポジウム、ワークショップ、展覧会、ラウンジ系イベントなどのイベントプログラム、国内外のアーティストやキュレーターを対象としたレジデンスプログラム、視覚芸術に関わる批評や文化の今をバイリンガルで発信するパブリケーションなどがあります。AITは、「不必要なコストを最小限に、必要なコンテンツを最大限に」を活動哲学に、個人や企業、財団、文化機関などと連携しながら、軽やかにフレキシブルに、視覚芸術を考える場の創出をめざします。

STAFF

ロジャー・マクドナルド [コースディレクター]

1971年生まれ。イギリスのケント大学にて、宗教学修士課程修了後、美術理論にて博士号を取得。1998年より、インディペンデントキュレーターとして、国内外で数々の小規模な展覧会を企画。また、「横浜トリエンナーレ2001」では、南條史生氏のアシスタントキュレーターとして活動。東京藝術大学、東京造形大学、多摩美術大学、テート・ブリテンでの講義も行う。

小澤慶介 [コースディレクター]

1971年生まれ。明治学院大学文学部フランス文学科卒業後、イギリスのロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて美術史の修士号を取得。これまでに、麹町画廊においてサキサトムやウリ・ツァイクなどの展覧会、また第8回NICAF (国際コンテンポラリーアートフェスティバル) においてビデオアートショー「your memorabilia — 記憶へのまなざし」を企画。NICAF事務局ではカルチュラル・プロジェクト・マネージャーとして活動。明星大学講師 (映像論)。

小沢有子 [マネージングディレクター]

学習院大学法学部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジウアンドアソシエイツにて「イタリア現代美術1945-1995展」、「大林組コーポレートアートプロジェクト」「サンパウロビエンナーレ2002」など国内外の展覧会やアートプロジェクトのコーディネート、コンサルタント、マネージメントを担当。東京藝術大学での講義も行う。

宮原洋子 [サポート]

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。森美術館副館長秘書。1995～2002年ナンジウアンドアソシエイツ所属。同機関において、国際美術評論家連盟日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」のボランティアスタッフのコーディネート、MADの立ち上げなどに携わる。

特定非営利活動法人 アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-8 ツインビル代官山B-103 Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0753 E-mail: office@a-i-t.net

Arts Initiative Tokyo *Non-profit Organization* Twin Bldg., Daikanyama B103, 30-8 Sarugaku-cho, Shibuya-ku, Tokyo 150-0033 Japan



A I T

<http://www.a-i-t.net>